

於 二本松市市民交流センター＋オンライン

原子力災害時の 安定ヨウ素剤の服用に 関する教材等の調査

後藤 忍

福島大学 大学院 共生システム理工学研究科 教授

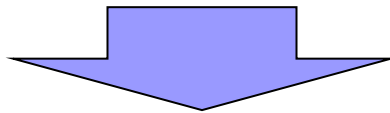
E-mail: a067@ipc.fukushima-u.ac.jp

※本研究は、文部科学省科学研究費補助金基盤研究 (No.25K04589)の助成を受けて行いました。また、日本環境教育学会第36回年次大会での発表内容を元に行っています。

研究の背景と目的

■ 原子力災害時の安定ヨウ素剤の服用に関する教材等の状況

- 日本政府は、2025年2月18日に第7次エネルギー基本計画を策定した。第4次（2014年）から第6次（2021年）の計画における「可能な限り原発依存度を低減する」が削除され、原子力を「最大限活用する」と記述されるなど、原発回帰の姿勢が鮮明となった。
- 日本の原発の再稼働も進められており、2025年10月20日現在の稼働状況は7発電所11基となっている。
- 2011年3月に起きた東京電力福島第一原子力発電所（以下、福島第一原発）の事故では、日本政府や福島県による安定ヨウ素剤の配布や服用についての指示が適切に行われなかったことが教訓の一つとして国会事故調や政府事故調の報告書で指摘されている。
- 有事の際には、特に放射線被ばくの高感受性が高い子どもや妊婦が適切なタイミングで安定ヨウ素剤を服用することが求められる。



研究の目的:

原子力災害時の安定ヨウ素剤の服用に関する情報が教育・広報の内容として教材等にどの程度説明されているか、現状を把握する。

安定ヨウ素剤の扱いと住民への周知等

■ 原子力災害対策重点区域での安定ヨウ素剤の扱い

- **PAZ**(概ね半径5km圏, 予防的措置を準備する区域)

⇒ 事前配布

- **UPZ**(概ね半径30km圏, 緊急防護措置を準備する区域)

⇒ 原則緊急配布

(自治体判断で一部事前配布可能)

○PAZ:Precautionary Action Zone

原子力施設から概ね半径5km圏内(発電用原子炉の場合)。
放射性物質が放出される前の段階から予防的に避難等を行う。
安定ヨウ素剤は事前配布

○UPZ:Urgent Protective action planning Zone

PAZの外側の概ね半径30km圏内(発電用原子炉の場合)。
予防的な防護措置を含め、段階的に屋内退避、避難、一時移転を行う
安定ヨウ素剤は原則緊急配布(自治体判断で一部事前配布可能)



内閣府(2020)「安定ヨウ素剤の事前配布に係る運用について」のポイント」(一部加筆)

■ 住民への周知等

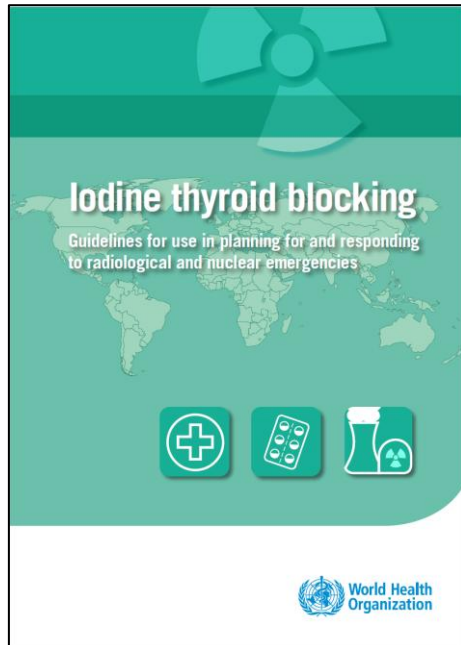
- 内閣府の防災基本計画では、「第12編 原子力災害対策編」において、2024年の改正で、地方自治体が安定ヨウ素剤の服用の効果等について住民等に周知徹底することの努力義務が明記された。

「地方公共団体は、原子力災害対策指針等を参考に、安定ヨウ素剤の服用の効果等について住民等へ日頃から周知徹底に努めるものとする。」

安定ヨウ素剤に関するWHOのガイドライン

■ WHOのガイドライン

- WHO(2017)「Iodine thyroid blocking」(安定ヨウ素剤投与による甲状腺ブロック)は、放射線災害および原子力災害への計画と対応における安定ヨウ素剤の利用ガイドラインを示したもの。
- 1986年のチェルノブイリ(チェルノブイリ)原発事故後の1989年に作成され、その後、これまで数回改正された。



本研究の
調査項目
に反映



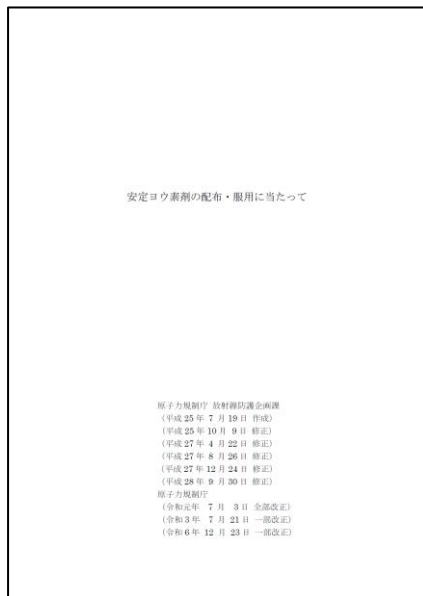
Contents

Contents	1
Acknowledgements	3
Acronyms	5
Executive summary	6
Background	6
Purpose and objectives	6
Target audience	7
How were these guidelines developed?	7
Public health considerations of ITB implementation	7
1. Introduction	9
1.1. Rationale	9
1.2. Objectives	10
1.3. Scope	11
1.4. Target audience	11
2. Methods	12
2.1. Process of developing these guidelines	12
2.2. Management of conflicts of interest	13
2.3. Formulating questions in PICO format	13
2.4. Evidence search and retrieval	14
Inclusion and exclusion criteria	14
Systematic review outcomes	14
2.5. Method used to assess the quality of evidence	15
3. Recommendation and public health considerations	18
3.1. Public health considerations of ITB implementation	18
Planning and preparedness	19
Chemical form, storage, and packaging	19
Dosage	20
Adverse effects of stable iodine	20
Timing of administration	20
Pre-distribution and distribution	21
Special consideration groups of the population	21
3.2. Research priorities	22
4. Dissemination and implementation	23
4.1. Dissemination	23
4.2. Implementation monitoring	23
4.3. Review-by date	23
5. References	24

安定ヨウ素剤に関する原子力規制庁の解説書

■ 原子力規制庁の解説書

- 原子力規制庁(2024)「安定ヨウ素剤の配布・服用に当たって」は、安定ヨウ素剤の効能又は効果、適切な服用のタイミング、服用を優先すべき者への配慮、副作用等の課題を整理し、解説したもの。
- 2011年の福島第一原発事故後の2013年に作成され、これまで改正されてきた。



本研究の
調査項目
に反映

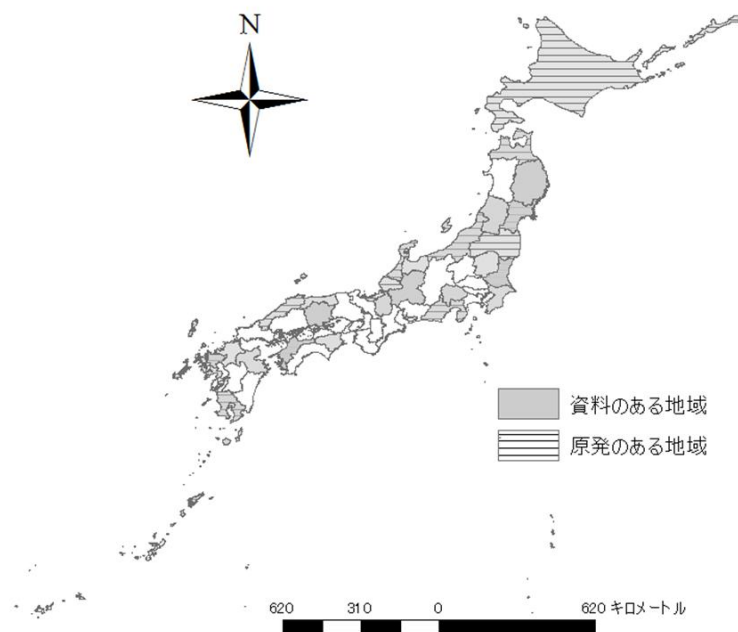
目次

1. はじめに	1
2. 安定ヨウ素剤の服用に関する基本事項	1
(1) 効能又は効果	1
(2) 服用方法	2
① 服用量	2
② 服用のタイミング	3
③ 服用回数	3
(3) 服用対象者	4
① 服用を優先すべき対象者	4
② 40歳以上の者への効果	4
(4) 副作用	5
① 副作用の可能性	5
② 副作用への対応	6
3. 事前準備	6
(1) 区域別の基本的な枠組み	6
a. PAZ	7
① 施設敷地緊急事態で優先的に避難させる者への対応	7
② 事前配布対象者	7
③ 事前配布方法	7
④ その他	8
b. UPZ	8
(2) 情報の伝達手段の確保	9
(3) 調達及び備蓄	9
① 備蓄量	9
② 備蓄場所	10
(4) 住民への周知	11
① 保管方法	11
② 更新及び回収	11
③ その他	12
(5) 緊急配布の準備	12
① 配布対象者	12
② 配布場所及び配布方法	12
(6) 訓練	13
4. 緊急事態での対応	13
(1) 施設敷地緊急事態	13
(2) 全面緊急事態	13

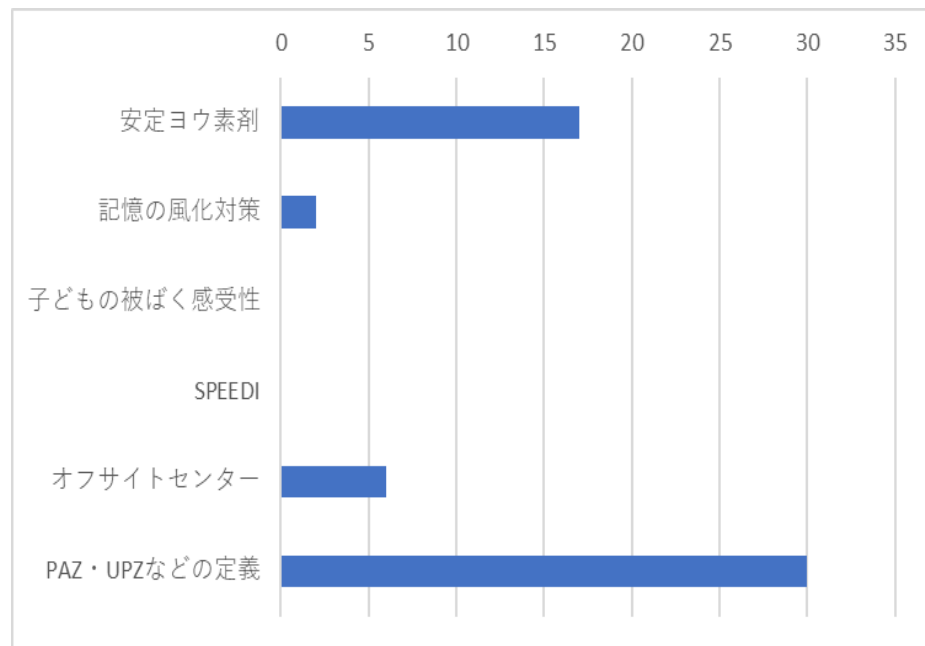
地方自治体が作成した教材等の先行研究の例

■ 野澤・後藤(2020)の調査結果の例

- 47都道府県中27カ所で教材等が確認され、原子力発電所が立地する13道県は全て作成していた。
- 原子力災害対策重点区域にある135市町村のうち52市町村(39%)で59件の資料が見られ、そのうち「安定ヨウ素剤」が書かれていたのは17件(29%)だった。



都道府県教育委員会における独自の原子力・放射線教育に関する教材や資料の有無



原子力災害対策重点区域内の市町村の資料のキーワード等に関する記述の集計結果(n=59, 複数回答)

(出典:野澤樹・後藤忍(2020)「全国の都道府県および原子力災害対策重点区域の市町村の教育委員会における原子力・放射線教育の特性把握」, 福島大学大学院共生システム理工学研究科 修士論文)

研究方法

■ 調査対象の教材等

- ① 文部科学省の放射線副読本
- ② 原発または原子力災害対策重点区域がある21道府県および135市町村が作成した教材等（例：放射線等に関する指導資料，原子力防災のしおり・ガイドブック・パンフレット，安定ヨウ素剤に関する説明資料・ウェブページ）

■ 調査方法

- 文部科学省や地方自治体のウェブサイト内で検索する（2025年9月時点）。
キーワード：「安定ヨウ素剤」，「原子力防災」
- 一般の人々向けの教材等を収集する。
（※分量が多く専門的な「地域防災計画 原子力災害対策編」は含まない）
- 安定ヨウ素剤に関する情報の有無をチェックし，星取表を作成する。
 - a) 安定ヨウ素剤の効能
 - b) 甲状腺の位置やブロックの仕組み（図）
 - c) 安定ヨウ素剤の写真または図
 - d) 優先的に服用すべき集団（子ども，妊婦等）
 - e) 服用量
 - f) 服用の具体的なタイミング
 - g) 副作用

留意点

- インターネット上に公開されていない教材等は確認できない。

（※教材等1つごとに分類を行い，結果の集約では自治体単位でまとめる）

安定ヨウ素剤に関する情報の分類例(1)

4 安定ヨウ素剤とは

a) 安定ヨウ素剤の効能

原子力災害時には、放射性ヨウ素が大気中に放出されることがあります。呼吸や飲食により放射性ヨウ素を大量に摂取すると、甲状腺に集まり、内部被ばくにより甲状腺がんを発症する可能性があります。あらかじめ、安定ヨウ素剤を服用することで甲状腺の内部被ばくを予防または低減する効果があります。

安定ヨウ素剤は、放射性ヨウ素以外の放射性物質には全く効果はありません。このため、安定ヨウ素剤の服用は避難や屋内退避と組み合わせて行うことが重要です。

b) 甲状腺の位置やブロックの仕組み(図)

安定ヨウ素剤

放射性ヨウ素

甲状腺

体外に排出

c) 安定ヨウ素剤の写真または図

●保管方法と使用期限

- 直射日光のあたらない、湿気の少ない
- 指示があったらすぐ服用できるように
- (例) 薬箱や救急箱と一緒に保管、非常用持ち出し袋に入れておく
- ※安定ヨウ素剤の配布対象者の方や事前配布を受けた場合は、県から案内が郵送されるのでご確認ください。

ゼリー剤

生後1ヶ月以上3歳未満
ゼリー剤 (16.3mg) 2粒
又はゼリー剤 (32.5mg) 1粒
生後1ヶ月未満
ゼリー剤 (16.3mg) 1粒
又はゼリー剤 (32.5mg) の半分

安定ヨウ素剤

3歳以上13歳未満-1錠服用
13歳以上-2錠服用

丸剤

【使用期限】 製造から3年間

【使用期限】 製造から5年間

e) 服用量

e) 服用量

d) 優先的に服用すべき集団(子ども、妊婦等)

●WHOガイドライン2017年版では40歳以上の方への服用効果はほとんど期待できないとされています。よって配布対象者は原則40歳未満の方です。

●妊娠希望の方、妊娠されている方、授乳されている方は胎児・乳児が被ばくによる健康影響を受けやすいため、年齢に関わらず服用対象となります。

●40歳以上の方であっても希望者には安定ヨウ素剤を配布します。

e) 服用量

f) 服用の具体的なタイミング

g) 副作用

●いつ服用?

服用は指示が出てから!

安定ヨウ素剤は、効果のある時間が限られている。服用指示に従い、適切なタイミングで服用することが重要です。

安定ヨウ素剤の服用時期と効果

服用時期	抑制効果
被ばく24時間前	90%以上
被ばく8時間後	40%
被ばく16時間後	ほとんどなし

指示が出たら速やかに服用しましょう

●服用時の注意

- △服用は原則1回.....連続服用はしない。指示があった場合のみ再度服用すること
- △過剰服用はしない.....年齢により服用量は異なります。適切な服用量を超えて服用しても効果や効果を高めることにはなりません。
- △3歳未満の乳幼児.....3歳未満の乳幼児は、ゼリー剤を服用
- △ヨウ素過敏症の方.....ヨウ素に対して過敏症がある方は服用しない
- △薬の飲み合わせに注意.....治療中の病気、服用中の薬に注意
- △妊産婦・授乳婦.....指示をきちんと守る。体の状態を把握しておく
- △副作用.....服用によるメリット・デメリットを認識

不明な点はあらかじめ、かかりつけ医に相談しましょう

(出典: 出雲崎町(2023)「原子力災害対応ガイドブック」, p.13-14)

安定ヨウ素剤に関する内容

安定ヨウ素剤の効能	甲状腺の位置やブロックの仕組み(図)	安定ヨウ素剤の写真または図	優先的に服用すべき集団(子ども、妊婦等)	服用量	服用の具体的なタイミング	副作用
●	●	●	●	●	●	●

安定ヨウ素剤に関する情報の分類例(2)

c) 安定ヨウ素剤の写真または図

e) 服用量

a) 安定ヨウ素剤の効能

g) 副作用

b) 甲状腺の位置やブロックの仕組み(図)

(出典: 島根県(2020)「安定ヨウ素剤の説明用リーフレット 子ども向け」)

安定ヨウ素剤に関する内容						
安定ヨウ素剤の効能	甲状腺の位置やブロックの仕組み(図)	安定ヨウ素剤の写真または図	優先的に服用すべき集団(子ども, 妊婦等)	服用量	服用の具体的なタイミング	副作用
●	●	●		●		●

調査結果(1): 国および21道府県

国および 道府県	教材等		安定ヨウ素剤に関する内容						
	教材等 の有無	名称や種類	安定ヨウ素剤 の効能	甲状腺の位置やブロッ クの仕組み(図)	安定ヨウ素剤の 写真または図	優先的に服用すべき集団 (子ども、妊婦等)	服用量	服用の具体的な タイミング	副作用
文部科学省	●	放射線副読本							
北海道	●	原子力防災のしおり, 原子力防災マンガリーフレット	●				●		●
青森県	●	安定ヨウ素剤に関する資料(スライド)	●	●	●	●	●	●	●
宮城県	●	原子力防災の手引き, 安定ヨウ素剤に関する資料(スライド)	●	●	●	●	●		●
福島県	●	放射線等に関する指導資料, 原子力防災ガイドブック, 原子力防災 の手引き, ウェブサイト	●	●	●	●	●	●	●
新潟県	●	安定ヨウ素剤に関する資料(スライド, 動画, Q&A)	●	●	●	●	●		●
茨城県	●	原子力ハンドブック, 原子力とエネルギーブック, 安定ヨウ素剤に 関する資料(スライド, ウェブページ)	●	●	●	●	●		●
静岡県	●	原子力防災のしおり	●		●		●		●
富山県	●	原子力防災ガイドブック, 原子力防災通信	●	●	●	●	●	●	●
石川県	●	原子力防災のしおり	●	●	●		●		
岐阜県	●	原子力防災ガイドブック	●		●				●
福井県	●	安定ヨウ素剤に関する資料(スライド, 動画, Q&A)	●	●	●	●	●	●	●
滋賀県	●	原子力防災ハンドブック	●	●					
京都府	●	原子力災害時の避難ガイド	●					●	●
鳥取県	●	原子力防災ハンドブック, 安定ヨウ素剤に関する資料(スライド, 動画, ウェブページ)	●	●	●	●	●	●	●
島根県	●	安定ヨウ素剤に関する資料(リーフレット(子ども向け, 保護者向 け), ウェブページ, Q&A)	●	●	●	●	●	●	
山口県									
愛媛県	●	安定ヨウ素剤に関する資料(スライド)	●	●	●	●	●	●	●
福岡県	●	原子力防災のしおり, 安定ヨウ素剤に関する資料(Q&A)	●	●	●		●	●	●
佐賀県	●	原子力防災の手引き	●		●	●	●		●
長崎県	●	原子力防災の手引き	●	●	●		●		●
鹿児島県	●	原子力防災のしおり, 安定ヨウ素剤に関する資料(動画)	●	●	●	●	●	●	●
計	21	—	20	15	17	12	17	10	17

- 文部科学省の放射線副読本ではすべてが未記載だった。
- 21道府県では, 山口県を除く20道府県で教材等が確認され, 「安定ヨウ素剤の効能」, 「甲状腺の位置やブロックの仕組み(図)」, 「安定ヨウ素剤の写真または図」, 「服用量」, 「副作用」は7割以上と比較的多く掲載されていた。
- 「優先的に服用すべき集団(子ども, 妊婦等)」, 「服用の具体的なタイミング」は5~6割程度と相対的に少なかった。

調査結果(2):135市町村の作成状況

道府県	PAZ・UPZ圏内の市町村数 (A)			教材等を確認できた市町村数 (B)			教材等を確認できた市町村の割合 (B/A)		
	PAZを含む	UPZのみ	計	PAZを含む	UPZのみ	計	PAZを含む	UPZのみ	計
北海道	3	10	13	1	4	5	33%	40%	38%
青森県	1	4	5	1	2	3	100%	50%	60%
宮城県	2	5	7	2	2	4	100%	40%	57%
福島県	5	8	13	1	3	4	20%	38%	31%
新潟県	2	7	9	2	6	8	100%	86%	89%
茨城県	4	10	14	2	5	7	50%	50%	50%
静岡県	1	10	11	1	6	7	100%	60%	64%
富山県	0	1	1	0	0	0	—	0%	0%
石川県	1	7	8	1	1	2	100%	14%	25%
岐阜県	0	1	1	0	0	0	—	0%	0%
福井県	5	7	12	5	2	7	100%	29%	58%
滋賀県	0	2	2	0	1	1	—	50%	50%
京都府	1	7	8	1	5	6	100%	71%	75%
鳥取県	0	2	2	0	1	1	—	50%	50%
島根県	1	3	4	1	3	4	100%	100%	100%
山口県	0	1	1	0	0	0	—	0%	0%
愛媛県	2	5	7	1	0	1	50%	0%	14%
福岡県	0	1	1	0	0	0	—	0%	0%
佐賀県	2	1	3	2	1	3	100%	100%	100%
長崎県	0	4	4	0	4	4	—	100%	100%
鹿児島県	1	8	9	1	5	6	100%	63%	67%
計	31	104	135	22	51	73	71%	49%	54%

- 135市町村では、**PAZ**を含む31自治体のうち**22自治体(71%)**、**UPZ**のみの104自治体のうち**51自治体(49%)**で教材等が作成されており、**PAZを含む自治体のほうが割合が高く、全体では73自治体(54%)**だった。
- 道府県が作成した教材等を紹介しているところもあった。

調査結果(3):道府県別の市町村の例(1)

北海道

道府県	市町村	PAZ・UPZ	教材等		安定ヨウ素剤に関する内容						
			教材等の有無	名称や種類	安定ヨウ素剤の効能	甲状腺の位置やブロックの仕組み(図)	安定ヨウ素剤の写真または図	優先的に服用すべき集団(子ども、妊婦等)	服用量	服用の具体的なタイミング	副作用
北海道	泊村	PAZ	●	原子力防災のしおり	●				●		●
	共和町	PAZ									
	岩内町	PAZ									
	神恵内村	UPZ	●	原子力防災のしおり	●				●		●
	寿都町	UPZ	●	原子力防災のしおり	●		●			●	●
	蘭越町	UPZ									
	ニセコ町	UPZ									
	倶知安町	UPZ									
	積丹町	UPZ									
	古平町	UPZ	●	原子力防災のしおり	●		●			●	●
	仁木町	UPZ									
	余市町	UPZ	●	原子力防災のしおり	●	●	●		●	●	●
	赤井川村	UPZ									
計	13	—	5	—	5	1	3	0	3	3	5

福島県

道府県	市町村	PAZ・UPZ	教材等		安定ヨウ素剤に関する内容						
			教材等の有無	名称や種類	安定ヨウ素剤の効能	甲状腺の位置やブロックの仕組み(図)	安定ヨウ素剤の写真または図	優先的に服用すべき集団(子ども、妊婦等)	服用量	服用の具体的なタイミング	副作用
福島県	大熊町	PAZ									
	双葉町	PAZ									
	浪江町	PAZ									
	富岡町	PAZ									
	檜葉町	PAZ	●	檜葉町原子力災害広域避難の手引き	●	●					●
	広野町	UPZ	●	ひろの町原子力災害避難マニュアル	●						
	川俣町	UPZ									
	川内村	UPZ									
	いわき市	UPZ	●	安定ヨウ素剤に関すること	●	●	●	●	●	●	●
	田村市	UPZ	●	原子力災害が発生したら?	●						
	南相馬市	UPZ									
	葛尾村	UPZ									
	飯館村	UPZ									
計	13	—	4	—	4	2	1	1	1	1	2

調査結果(3):道府県別の市町村の例(2)

新潟県

道府県	市町村	PAZ・UPZ	教材等		安定ヨウ素剤に関する内容						
			教材等の有無	名称や種類	安定ヨウ素剤の効能	甲状腺の位置やブロックの仕組み（図）	安定ヨウ素剤の写真または図	優先的に服用すべき集団（子ども、妊婦等）	服用量	服用の具体的なタイミング	副作用
新潟県	柏崎市	PAZ	●	柏崎市防災ガイドブック(原子力災害編), 安定ヨウ素剤	●	●	●	●	●	●	●
	刈羽村	PAZ	●	安定ヨウ素剤 事前配布に関する情報	●			●			
	長岡市	UPZ									
	上越市	UPZ	●	安定ヨウ素剤の配布体制	●		●	●			
	小千谷市	UPZ	●	原子力災害対応ガイドブック	●	●	●				●
	十日町市	UPZ	●	原子力災害対応ガイドブック	●	●	●				●
	見附市	UPZ	●	原子力災害対応ガイドブック	●	●	●	●	●	●	
	燕市	UPZ	●	原子力災害対応ガイドブック	●	●					●
	出雲崎町	UPZ	●	原子力災害対応ガイドブック	●	●	●	●	●	●	●
計	9	－	8	－	8	6	6	5	3	3	5

茨城県

道府県	市町村	PAZ・UPZ	教材等		安定ヨウ素剤に関する内容						
			教材等の有無	名称や種類	安定ヨウ素剤の効能	甲状腺の位置やブロックの仕組み（図）	安定ヨウ素剤の写真または図	優先的に服用すべき集団（子ども、妊婦等）	服用量	服用の具体的なタイミング	副作用
茨城県	東海村	PAZ	●	安定ヨウ素剤に関する資料（ウェブページ）	●		●				
	日立市	PAZ									
	那珂市	PAZ									
	ひたちなか市	PAZ	●	安定ヨウ素剤に関する資料（ウェブページ）	●		●	●	●	●	
	常陸太田市	UPZ	●	安定ヨウ素剤に関する資料（ウェブページ）	●				●		
	常陸大宮市	UPZ									
	城里町	UPZ	●	原子力災害に備えた広域避難ガイドマップ	●						
	水戸市	UPZ									
	茨城町	UPZ									
	大洗町	UPZ									
	高萩市	UPZ									
	大子町	UPZ	●	大子町原子力災害広域避難ガイド	●	●					
	笠間市	UPZ	●	原子力災害広域避難所マップ	●						
	鉾田市	UPZ	●	原子力災害に備えた避難ガイドマップ	●						
計	14	－	7	－	7	1	2	1	2	1	0

調査結果(3):道府県別の市町村の例(3)

福井県

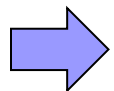
道府県	市町村	PAZ・UPZ	教材等		安定ヨウ素剤に関する内容						
			教材等の有無	名称や種類	安定ヨウ素剤の効能	甲状腺の位置やブロックの仕組み(図)	安定ヨウ素剤の写真または図	優先的に服用すべき集団(子ども、妊婦等)	服用量	服用の具体的なタイミング	副作用
福井県	敦賀市	PAZ	●	原子力防災パンレット、安定ヨウ素剤に関する資料(ウェブページ)	●	●	●	●	●		●
	美浜町	PAZ	●	原子力防災のしおり、安定ヨウ素剤に関する資料(ウェブページ)	●	●	●	●	●	●	●
	小浜市	PAZ	●	安定ヨウ素剤に関する資料(ウェブページ)	●		●	●			
	おおい町	PAZ	●	安定ヨウ素剤に関する資料(ウェブページ、PDF)	●	●	●		●		
	高浜町	PAZ	●	安定ヨウ素剤に関する資料(ウェブページ、PDF)	●	●	●	●	●	●	●
	南越前町	UPZ	●	原子力災害に備えて	●						
	福井市	UPZ									
	鯖江市	UPZ									
	越前市	UPZ	●	原子力防災のしおり	●	●	●			●	
	越前町	UPZ									
	池田町	UPZ									
	若狭町	UPZ									
計	12	-	7	-	7	5	6	4	4	3	3

鹿児島県

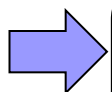
道府県	市町村	PAZ・UPZ	教材等		安定ヨウ素剤に関する内容						
			教材等の有無	名称や種類	安定ヨウ素剤の効能	甲状腺の位置やブロックの仕組み(図)	安定ヨウ素剤の写真または図	優先的に服用すべき集団(子ども、妊婦等)	服用量	服用の具体的なタイミング	副作用
鹿児島県	薩摩川内市	PAZ	●	原子力ぼうさいのしおり、原子力広報 薩摩川内 No.28	●	●	●	●	●		
	いちき串木野市	UPZ	●	原子力防災ガイドブック、安定ヨウ素剤について	●					●	●
	阿久根市	UPZ									
	鹿児島市	UPZ	●	原子力防災	●			●			
	出水市	UPZ	●	UPZ内における安定ヨウ素剤の事前配布							
	日置市	UPZ	●	原子力災害時の対処行動について							
	始良市	UPZ			●						
	さつま町	UPZ									
	長島町	UPZ	●	さつま町防災マップ 原子力災害編							
計	9	-	6		4	1	1	2	1	1	1

考察(1)

- 文部科学省の放射線副読本ではすべてが未記載だった。

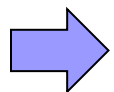


安定ヨウ素剤の服用による放射線防護は、全国的に子どもに教えるべき内容とは認識されていないと考えられる。

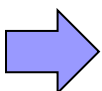


子どもは放射線被ばくの感受性の高さから優先的に服用すべき対象であり、福島第一原発事故時に安定ヨウ素剤の配布や服用についての指示が適切に行われなかった教訓の継承の観点からも、放射線副読本に記載すべき内容と考えられる。

- 原子力災害対策重点区域がある21道府県では、安定ヨウ素剤に関する教材等が多く作成されていたが、情報にはやや偏りがあり、「優先的に服用すべき集団(子ども、妊婦等)」と「服用の具体的なタイミング」は相対的に少なかった。



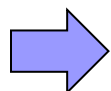
安定ヨウ素剤の服用の指示は国または地方自治体が行うこととなっており、優先的に服用すべき対象や服用の具体的なタイミングについては、必ずしも周知すべき内容とは認識されていないと考えられる。



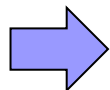
安定ヨウ素剤の服用による放射線防護の実効性を高めるためにも、優先的に服用すべき対象や服用の具体的なタイミングは記載すべき内容と考えられる。

考察(2)

- 原子力災害対策重点区域がある135市町村では、PAZを含む31自治体のうち22(71%)、UPZのみの104自治体のうち51(49%)で教材等が作成されており、PAZを含む自治体のほうが割合が高く、全体では73自治体(54%)だった。

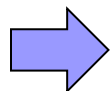


野澤・後藤(2020)に比べて教材等を作成する自治体は増えているが、道府県が作成した教材等を紹介したり、道府県と協力して作成する例もあり、必ずしも市町村独自に作成しているわけではないと考えられる。

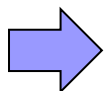


内閣府の防災基本計画において、地方自治体が安定ヨウ素剤の服用の効果等について住民等に周知徹底することの努力義務が明記されたことから、今後教材等の作成が期待される。

- 大人向けと区別して子ども向けに分かりやすく作成した教材等は限られていた。



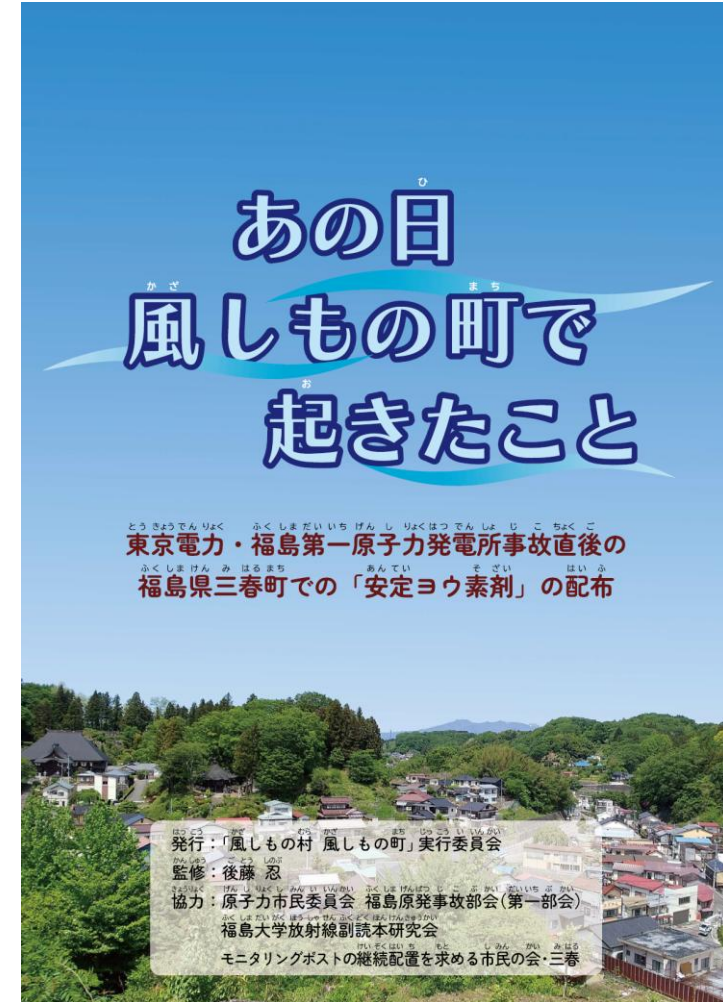
子どもが安定ヨウ素剤を服用する場合も、大人の判断で行うことが前提であり、子ども用を作成する必要はないと認識されている場合が多いと考えられる。



子どもの放射線被ばくの感受性は教えるべき内容であり、学校教育に取り入れやすくするためにも、子ども向けの教材等が作成されることが望ましいと考えられる。

参考：三春町の安定ヨウ素剤配布に関する教材

- 書名：『あの日 風しもの町で起きたこと
東京電力・福島第一原子力発電所事故直後の
福島県三春町での「安定ヨウ素剤」の配布』
- 発行：2025年3月27日
- 页数：A4版14頁
- 発行者：「風しもの村 風しもの町」実行委員会
- 監修：後藤忍
- 協力：原子力市民委員会 福島原発事故部会
(第1部会)
福島大学放射線副読本研究会
モニタリングポストの継続配置を求める
市民の会・三春
- デザイン：佐藤真弥



(出典：<https://drive.google.com/file/d/1vpbSOg2mMs4QgYPnVG4l29hhXe80FEF3/view>)

研究のまとめ

- 安定ヨウ素剤の服用による放射線防護について、文部科学省の放射線副読本ではすべてが未記載だった。
- 原子力災害対策重点区域がある21道府県では、安定ヨウ素剤に関する教材等が多く作成されていたが、情報にはやや偏りがあり、「優先的に服用すべき集団(子ども、妊婦等)」と「服用の具体的なタイミング」は相対的に少なかった。
- 原子力災害対策重点区域がある135市町村では、73(54%)の自治体で教材等が作成されており、PAZを含む自治体のほうがUPZのみの自治体よりも割合が高かった。
- 子ども向けに分かりやすく作成した教材等は限られていた。
- 子どもの放射線被ばくの感受性は教えるべき内容であり、内閣府の防災基本計画への対応や福島第一原発事故時の教訓の継承、学校教育への取り入れやすさの観点からも、安定ヨウ素剤に関する子ども向けの教材等が作成されることが望ましいと考えられる。

ご清聴ありがとうございました。